

会社概要

商 号 株式会社日本アクア
英 文 社 名 Nippon Aqua Co.,Ltd
代表取締役 中村 文隆
本 社 〒108-0075
東京都港区港南2-16-2 太陽生命品川ビル20F
TEL: 03-5463-1117 FAX: 03-5463-1118
設立年月日 2004年11月29日
資 本 金 19億3百万円
事 業 内 容 建築断熱用硬質ウレタンフォーム「アクアフォーム」販売・施工
住宅省エネルギー関連部材の開発・製造・販売
従 業 員 数 673人(単体) ※2025年6月末現在

株主メモ

事業年度
毎年1月1日から12月31日まで

基準日
毎年12月31日

定時株主総会
毎事業年度終了3カ月以内

単元株式数
100株

株主名簿管理人及び特別講座の講座管理機関
三菱UFJ信託銀行株式会社

役員 (2025年9月1日)

代表取締役 中村 文隆
専務取締役 村上 友香
常務取締役 永田 和久
取 締 役 藤井 豪二
取 締 役 宇佐美 計史
社外取締役 剣持 健
社外取締役 小松 健次
社外取締役 内海 統之(常勤監査等委員)
社外取締役 柏田 由貴(監査等委員)
社外取締役 樋口 尚文(監査等委員)
社外取締役 仁科 秀隆(監査等委員)

同連絡先

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
東京都府中市日鋼町1-1
TEL: 0120-232-711(通話料無料)

郵送先

〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部

公告方法

当会社の公告は、電子公告により行います。
<https://www.n-aqua.jp>
ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。



第22期中間 株主通信

2025年12月期[証券コード:1429]

AQUA REPORT

人と地球に優しい住環境を創ることで社会に貢献

ABOUT OUR BUSINESS

みえないところに 新しい価値を

たとえ、お洒落なデザインの家だとしても、
たとえ、最新設備のビルや施設だとしても、
室内が快適だとは限りません。
なぜなら、外からはみえない内側の施工品質が重要だからです。
高断熱・高機密な断熱材と防水材のサービスをトータルで展開し、
人々の暮らしを豊かにしていきます。



断熱材や防水材の分野において、トータルに提供

戸建住宅や建築物、工場などで使用される断熱材。温室効果の大きいフロンガスを使わず、水を使って現場で発泡させる断熱材「アクアフォーム」など、人と地球に優しい硬質ウレタンフォーム素材を使用しています。また、異常気象や大雨の増加、高度経済成長期の建築物の老朽化に対処するため、防水施工のニーズが拡大中。当社が開発した吹付けタイプの防水材「アクアハジクン」は短時間で硬化し、高い防水性と伸張性を兼ね備えているため最適なソリューションとなっています。

原料開発から施工、リサイクルまで唯一無二のビジネスモデル

テクニカルセンターを開設し、ファブレスで原料の自社製造を実現しています。さらに北米やアジアに留まらないグローバルな調達ルートを確認していることに加え、国内各地にウレタン原料のストックポイントを設置することで機動的な原料調達を行える体制を整備。また、北海道から沖縄まで、全国に営業拠点、物流倉庫、ウレタンリサイクル工場を配置し、地域性に応じた事業活動とウレタン原料の安定供給に取り組んでいます。また、吹付け硬質ウレタンフォームの施工では、大量のウレタン端材が発生しますが、当社では、全国の施工現場からウレタン端材の回収を行い、「アクアブロー(主に天井裏に敷き詰める断熱材)」として再製品化しています。

最旬動画コンテンツの紹介

日本アクア公式YouTubeでは、製品紹介や企業・IR情報、事業内容を動画でわかりやすく発信中。2025年12月期中間決算は、『兜町カタリスト』編集長・櫻井英明氏と弊社社長・中村文隆の対談形式で公開しています。ぜひご覧ください。



公式YouTube



コーポレートサイト



JPX日経中小型株指数に新規選定

日本アクアは、JPX総研と日本経済新聞社が共同算出する「JPX日経中小型株指数」の2025年度構成銘柄に新規選定されました。同指数は、資本効率や投資者志向の経営を行う中小型株企業から上位200銘柄を選定するもので、3年平均ROEや3年累積営業利益などの定量評価に加え、ガバナンスや情報開示など定性面も加味して決定されます。当社は今回の選定を励みに、企業価値向上と持続的成長を目指し、透明性と健全性の高い経営を推進してまいります。



JPX-NIKKEI Mid Small





TOP MESSAGE

トップメッセージ

代表取締役社長 中村 文隆

2025年12月期中間期 決算の概況

2025年4月から新築住宅・建築物への省エネ基準適合が義務化され、今後はZEH（ネット・ゼロ・エネルギー・ハウス）水準への引き上げも予定される中、高断熱化ニーズが一段と高まっています。こうした追い風のもと、戸建部門では「気密なき断熱は無力なり」をキーワードに、断熱施工に気密測定サービスを組み合わせた提案で差別化を図り、施工棟数が前年同期比18.8%増と大きく伸長、売上高は7,548百万円となりました。建築物部門では、半導体工場やデータセンター、商業施設、高層マンションなどの新設案件を着実に受注するとともに、受注から施工への移

行を円滑に進めるべく建築工事管理部を新設。これが奏功し、売上高は4,815百万円となりました。防水部門は625百万円、その他で2,992百万円を計上し、当中間期の売上高は15,983百万円（前年同期比21.9%増）、営業利益1,091百万円（同28.5%増）、経常利益1,102百万円、中間純利益748百万円と、全体として好調に推移いたしました。

2027年ZEHの定義を 断熱等級6へ引き上げ

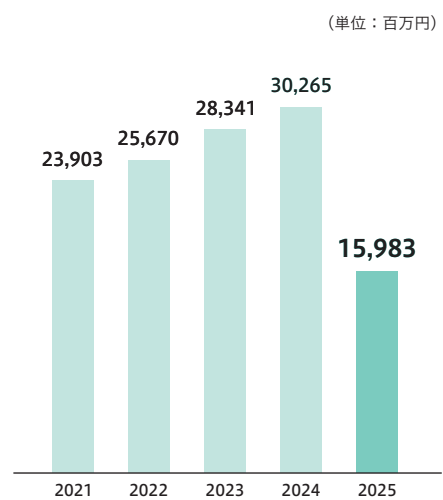
2025年5月、経済産業省は2027年からZEHの定義を見直し、断熱性能の基準を現行の断熱等級5相当から、より高い等級6相当へ引き上げる方針を示しました。これによ

り、住宅の外皮性能を示すUA値の基準が厳しくなり、設計段階での断熱仕様の見直しや現場での確実な施工が一層求められます。また、暮らしの快適さや冷暖房効率を重視する声も高まっており、高断熱・高気密の性能は今後の住宅に欠かせない要素となっています。

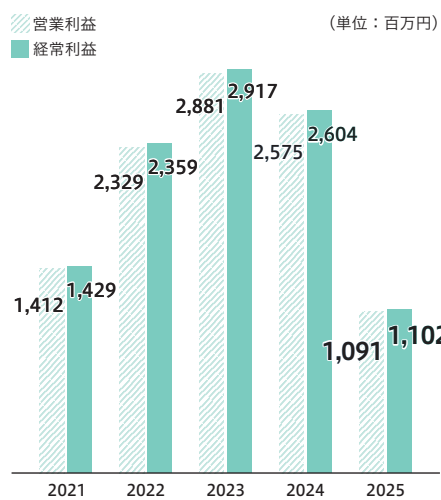
こうした状況を踏まえ、当社では制度動向を先取りし、高断熱・高気密の住宅づくりに注力しています。断熱材の品質確保はもちろん、設計支援や施工の標準化、気密測定による施工精度の検証を通じて、住宅性能を確実に担保する体制を整えました。今後も制度対応にとどまらず、お客様のニーズに応える提案力と技術力で、省エネかつ快適な住まいづくりを支えてまいります。

FINANCIAL HIGHLIGHTS 財務ハイライト

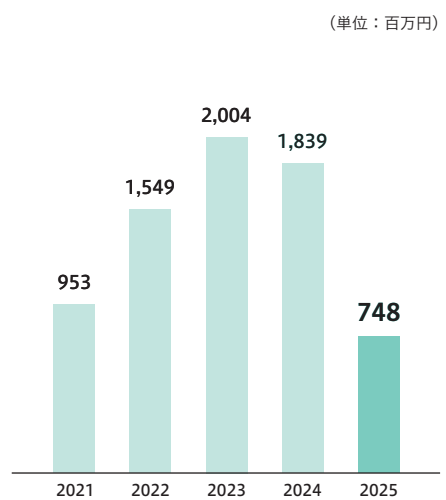
売上高



営業利益・経常利益



当期純利益



NEWS AND TOPICS 最新ニュース

戸建部門

断熱等級6.5実務者向けセミナーを全国5都市で開催

2025年7月、当社は全国5都市で「高断熱住宅を実現するための断熱等級6.5実務者セミナー」を開催しました。セミナーでは、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻の前真之准教授が基調講演を行いました。前准教授は、健康・快適で電気代の心配がない生活を太陽エネルギーで実現する「エコハウス」の普及を目指し、断熱・気密を含む住宅の省エネ設計技術の研究開発に取り組む第一人者です。講演では、快適な住まいには断熱と気密の両立が不可欠であることや、コストパフォーマンスに優れた断熱等級6を上回る性能水準「断熱等級6.5」の考え方と実現方法が紹介されました。さらに、当社に加え、旭化成建材株式会社、YKK AP株式会社の3社による高性能な断熱材・構造材・開口部を組み合わせた事例を提示し、実務者が現場で即活用できる具体的な内容となりました。

いずれの会場も参加者が多数集まり、高断熱・高気密住宅への関心の高さを改めて感じるセミナーとなりました。



セミナーで使用した資料



当日の様子

建築物部門

データセンターの 低PUE化を支える日本アクア

データセンターでは、電力使用効率を示す「PUE (Power Usage Effectiveness) = 施設全体の消費電力 ÷ IT機器の消費電力」の値を低く保つことが求められ、特に空調にかかる電力の削減が重要です。当社の高性能断熱材は冷房効率を高め、空調負荷を軽減することでPUEの改善に貢献できるため、省エネを重視した多くのデータセンターで採用されています。



防水部門

「アクアハジクン」 国家的重要施設の仕様書に採用

超速硬化防水材「アクアハジクン」が、国家的に重要な施設の仕様書に採用されました。本製品は高い耐久性と安全性を備え、過酷な環境下でも劣化しにくく、長期にわたり安定した性能を発揮します。さらに、迅速な硬化により工期が短縮可能なおうえ、施工時の環境負荷も抑制します。今回の採用は、当社の技術力と製品への信頼の証です。今後も社会の安全と持続可能なインフラ整備に貢献してまいります。

